

## 安全な分娩へ連携 飛騨北部の医療機関など 岐阜・へき地妊婦支援協

2009年4月22日 提供：毎日新聞社

へき地妊婦支援協：安全な分娩へ連携 飛騨北部の医療機関など /岐阜

高山市の県飛騨総合庁舎で21日、飛騨北部（高山市・飛騨市・白川村）の医療機関や保健所、行政、消防関係者が初の「飛騨圏域へき地妊婦支援体制協議会」を開催。山間地域に住んでいる妊婦を常に掌握し、緊急な処置が必要な場合、安全な分娩（ぶんべん）を確保するために連携体制を取ることで一致した。5月中旬からの実施を予定している。

この日の協議会で、（1）2市1村は母子保健手帳交付時に任意で妊婦から収集した情報を保健所へ伝達する（2）保健所は登録マップなどに登録して関係機関へ情報を伝達する（3）消防署は緊急な処置が必要な妊婦から救急要請があった場合、最寄りの診療所と連絡を取り、必要な処置を施して分娩可能な医療機関へ搬送する（4）最寄りの診療所は消防署からの支援依頼があった際は分娩可能な医療機関までの救急処置を行う--ことを確認した。

この日は高山市と飛騨市の医師会長や病院長ら医療関係者のほか、両市の消防本部消防長、保健所長ら2市1村の関係者約20人が出席した。

飛騨北部を管轄する飛騨保健所管内には分娩可能な病院・診療所は6カ所、分娩を扱う助産所は2カ所ある。これらの施設で08年度に計1298人が出産した。同保健所によると、分娩医療機関までの所要時間が40分から約2時間かかる山間地域で出産を控えている妊婦は、今年2月16日現在で約20人いたという。

飛騨保健所は2市1村の関係者に呼び掛け、これまで5回にわたり「へき地妊婦支援体制検討会」を開き、検討結果をもとに医療機関や消防に働きかけて協議会開催にこぎつけた。【奈良正臣】

m3.com より